The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	非動作性名詞のサ変動詞語幹化用法の意味と特徴
Author(s)	田島, 誠也
Citation	現代日本語研究. 2018, 10, p. 18-34
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70102
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

非動作性名詞のサ変動詞語幹化用法の意味と特徴

Meanings and Characteristics of Non-Action Nouns
Used as *Suru*-Verb Stems in Japanese

田島　誠也
TAJIMA Seiya

キーワード　非動作性名詞，動名詞，サ変動詞，若者ことば，SNS

要　旨

従来の研究では「名詞＋する」の形で複合語が作られる場合，その名詞は動作性を持たねばならないとされてきた。本稿は，「お茶する」「大学生する」「サンドイッチする」などのように，近年の若者ことばやウェブログなどで見られる，非動作性名詞がサ変動詞の語幹として使用されている用法について，その意味と特徴を考えるものである。意味について，名詞から連想される５つの意味を持ち，どの意味が選択されうるかにより，名詞の分類が可能であることを示す。特徴について，通常の動名詞との違いや若者ことばとの違いを示す。

１．はじめに

日本語において動詞「する」は非常に造語力が高い語であり，様々な語のあとに付いて複合語を作ることができる。この造語法において，「する」の前に付くことができる語は動作性[1)]を持っていなければならない。このような動作性を持った語は通常の名詞と区別して「動名詞（verbal noun)」と呼ばれ，その特徴などについては影山（1993）など多くの研究がなされている。しかし実際には動作性を持たない語に「する」が付いた用例も少なくない。「お茶する」「チンする」「はしごする」などはかなり広く普及した表現になってきているように感じる。

また，近年若者を中心として，これまで用いられてきた「する」の意味とは異なる意味で使用されているものが現れている。例えば〈友人と酒をのみなが

ら騒ぐ〉といった意味で「大学生する」という表現や，〈女友達とカフェで談笑する〉といった意味で「女子する」という表現を用いているのを目にする。

このような動作性を持たない語に「する」が付いた用法は，これまでのサ変動詞研究や動名詞研究の中ではほとんど対象とされてこなかった。しかし近年，書籍名やキャッチコピー，ウェブログ，SNS などの多くの場面で見ることができるようになりつつある。そこで本稿では，このような非動作性名詞に「する」が付きサ変動詞語幹化している用法[2)]に注目することとした。

２．先行研究と問題のありか

２．１．先行研究

これまで，動名詞やサ変動詞については，影山（1993），平尾（1990）など多くの研究がなされているが，いずれも一般的な動作性を持った名詞のみを扱い，「非動作性名詞＋する」用法を取り扱った研究はほとんど見られない。

古澤（2014）は，この用法は話し言葉に見られることが多いことから，無助詞現象とかかわりがあるのではないかとし分析している。しかし対象としている語（「くしゃみ（ヲ）する」「元気（ニ）する」「めまい（ガ）する」など）は「する」が本来持つ意味から解釈できるものであり，「非動作性名詞＋する」用法として近年用いられるようになったものとは異なる。本稿の対象となる「科学する」「男の子する」などについては，助詞の復元が不可能であるとするだけで詳しい言及はされていない。

動名詞という観点ではなく，「非動作性名詞＋する」を若者ことばの一部として見るのであれば，いくつか言及されている研究がある。

米川（1998）は俗語研究の下位分類としての若者語研究を提案する。そのなかで現代の若者語の造語法の１つとして「動詞の複合」があるとし，例に「お茶する（喫茶店に行く）」「女子大生する（ミーハーぽく騒いで遊び回る）」「金妻する（テレビドラマ『金曜日の妻たちへ』から，不倫する）」などを挙げている。

伊東（2010）はこれまで形態論的な側面ばかりに注目されてきた若者ことばの意味論的側面に注目する必要性を論じ，若者ことばには比喩が多く用いられていることを述べた。伊東は若者ことばに用いられている比喩にはメタファー，

メトニミー, シネクドキーがあるとし, それぞれに分類される語を挙げている。その中には１例のみであるが「アネハする」という「非動作性名詞＋する」用法も含まれている。

しかし，いずれの研究も，若者ことばという枠の中で一部の用例として扱っているのみである。本用法は，一部分若者に特有の表現があるとはいえ，かなり一般的に用いられているものも多く，若者ことばという見方でしか分析しないのは不十分であるように思われる。「非動作性名詞＋する」という用法として扱い，その特徴を述べている研究はやはりほとんど見られない。

２．２．問題のありか

本稿の目的は，これまで研究の対象とされてこなかった「非動作性名詞＋する」について，表されている意味から分類し，従来の動名詞や若者ことばの特徴と比較した本用法の特徴を考察することである。

第一に，大規模なコーパスを用いて，「非動作性名詞＋する」用法に用いられる名詞を収集し，分類を行う。「非動作性名詞＋する」用法の意味は元となる２語の単純な意味の合成からは意味を解釈することができないという性質があり，解釈には名詞からの連想や比喩がかかわっている。それぞれの名詞がどのような意味として用いられるのかという点に注目して分類を行っていく。

第二に，本用法の特徴を従来の動名詞や若者ことばと比較して考察する。従来用いられている動名詞との違いや，米川（1998）・伊東（2010）で述べられているような若者ことばの使用目的をもとに，比較的幅広く使用される本用法の特徴を考察していく。

３．調査対象

本稿の対象である「非動作性名詞＋する」用法を次のように定義する。

> 動作性を持たない名詞[3)]（およびそれに準ずる語）に「する」が付いた用法のうち，全体の意味が２語の単純な合成や「する」が持つ本来の意味として解釈されず，名詞からの連想や比喩によって解釈される用法。

つまり，明らかに動作性を持たない名詞に「する」が付いた「メガネする」「大学生する」はそれぞれ「メガネをする」「大学生をする」といった形で助詞が復

元され，「する」の本来の意味から解釈できるため対象としない。また，「一万円する」「三か月する」などは助詞の復元がされないものの「する」本来の意味から「一万円の価値がある」「三か月が経過する」と解釈されるため，除外する。

ただしその文脈から明らかに辞書的な意味を逸脱し，連想や比喩を伴って解釈される場合は対象とする。

４．調査方法

調査には，「現代日本語書き言葉均衡コーパス　通常版」と「国語研日本語ウェブコーパス」からそれぞれコーパス検索アプリケーション『中納言』『梵天』を用いて，以下の条件で検索したもの，および発表者が SNS 等の検索機能によって入手したデータを用いる。

■中納言での検索

・短単位検索

キー：品詞＝名詞-普通名詞-一般

後方共起（キーから 1 語）：語彙素＝為る

検索対象：出版・雑誌（コア・非コア），出版・書籍（コア・非コア），図書館・書籍（非コア），特定目的・知恵袋（コア・非コア），特定目的・ブログ（コア・非コア）

――

キー：品詞＝名詞-固有名詞

後方共起（キーから 1 語）：語彙素＝為る

検索対象：全て

■梵天での検索

キー：品詞＝名詞-普通名詞-一般

後方共起（キーから 1 語）：語彙素＝為る

検索結果のうち 10 万件をダウンロード

５．調査結果

調査の結果，以下の 80 語の名詞が「非動作性名詞＋する」用法に用いられていることが分かった。

アイドル，朝マック，アネハ，インド，おにぎり，お風呂，お手玉，お正月，お茶，お昼ご飯，科学，カジノ，カビキラー，カフェ，カンガルー，ギンザ，クリスマス，クリニック，ゲーセン，ケチャ，ゲンコツ，コギャル，ごはん，コバンザメ，コンニチワ，さよなら，サンドイッチ，シュー，セコム，大学生，棚ぼた，チン，デザート，トイレ，ドナドナ，どろん，トンカチ，バースデー，ハイエナ，バイバイ，はしご，パソコン，バトン，バルサン，バレンタイン，ハロウィン，ビデオ，ひな祭り，ファブリーズ，フライデー，フルーツ，ブログ，マキロン，マジックリン，マツキヨ，ランチ，レジ，枝豆，写メ，尺八，女，女の子，少女漫画，少年マンガ，双子，男の子，蝶番，哲学，壁，墓，○，Amazon，ＢＡＲ，BLOG，Google，Gucci，ＰＣ，Skype，ｗｅｂ，ＹＡＨＯＯ

６．「非動作性名詞＋する」用法の意味

「非動作性名詞＋する」用法の意味は次の５つにまとめることができる。

①いかにもＮらしい行為をする

②いかにもＮらしい様子・状態

③まるでＮのような行為をする

④まるでＮのような様子・状態

⑤特定の行為とそれに連続・並行して行われる行為をする

それぞれの意味で解釈できる用例としては，以下のようなものが見られた。

(1) 大人だって**クリスマスし**たいもんねー。アオたんからのプレゼントも嬉しかったよ～！

(http://namamacoco.blog103.fc2.com/blog-entry-404.html)

(2) （ずんだ餅について）以前，仙台から広島に遊びに来てたお客さんに，「ずっと食べたいんよ～」って話したら，なんと送ってきてくれました！感謝！感謝だね！もう，スタッフも取り合いです。（笑）めっちゃ**枝豆し**てて，世の中まだまだ知らん食べ物があるんだなぁ～なんて思いながら頬張ってました！ （Yahoo!ブログ）

(3) 張り込むカーボンクロスを最初から厚めに重ねたり，途中にカーボンマットなどの芯材を**サンドイッチし**たりして対処してほしい。

（『ラジコンマガジン』八重洲出版）

(4) ワンピースに草履という今夏の最新ファッションでそこらを歩くことになった。　「ハヤシさんたら，足だけ**コギャルし**てますね」　会った人に言われた。実は今，私の足の爪は茄子紺に塗られているのだ。

（林真理子 1998『踊って歌って大合戦』文芸春秋）

(5) 大阪北浜にある，北浜レトロで**カフェし**てきました。

（http://buddyxxx.blog64.fc2.com/blog-entry-1094.html）

(1)の「クリスマスする」は「クリスマスに友人と集まり会食をする」のような意味で用いられている。そのほかに「クリスマスケーキを食べる」「クリスマスを恋人と過ごす」などの意味で用いられているものもあるが，総じて「いかにもクリスマスらしい行為をする」とまとめることができる。(2)の「枝豆する」は「味や触感がいかにも枝豆らしく感じられる」などといった意味で用いられ，「いかにも枝豆らしい様子・状態」とまとめることができる。

(3)の「サンドイッチする」は，この文脈では「カーボンマットなどの芯材をサンドイッチのように挟み込む」という意味で用いられ，「まるでサンドイッチのような行為をする」ということができる。(4)の「コギャルする」は古風な感じがあり，コギャルとはかけ離れているような「ハヤシさん」だがその足元の様子が「まるでコギャルのような様子・状態」であるという意味で用いられている。

「いかにもＮらしい～」[4)]になるか「まるでＮのような～」になるかは，Ｎそのもの/時/場所にその行為や様子・状態が適用されるか，Ｎではないもの/時/場所にその行為や様子・状態が適用されるかで決められる。例えば，「クリスマスする」や「枝豆する」はＮそのときにどのような行為をするか，そのものがどのような様子・状態かについて言及しているが，「サンドイッチする」や「コギャルする」はＮではないものについてどのような行為をするのかを表わしている。

以上の４つとは違った意味で解釈されるものとして，(5)のように「特定の行為とそれに連続・並行して行われる行為をする」という意味を表わすものがある。「カフェする」は「いかにもカフェらしい～」とも「まるでカフェらしい～」とも解釈できない。この語はこの文脈で「カフェに行き飲食する」という意味

を表わしている。「カフェに行く」という行為とそれに連続する「何かを飲食する」という意味の両方が合わさった意味を表わしている。「する」の本来の用法に「他の動詞の代用として使われる用法」を認めるものもある。この用法との違いは一つの行為だけの代用として用いられているか，いくつかの行為を縮約して「する」が用いられているかという点である。「カフェする」の「する」が他の動詞と置き換えられるものだとすれば，その意味は「カフェ」という名詞とのつながりやすさからして「カフェに行く」程度になるだろう。しかし，ここではそれに連続して行われることが期待される「飲食する」という意味も含めて表わしている。この点でこれは「非動作性名詞＋する」用法に特徴的な意味であるといえる。特定の行為としてどのような行為が表されるかについては後述する。

７.「非動作性名詞＋する」用法に用いられる名詞の分類

前節で述べたように,「非動作性名詞＋する」用法には，５つの意味が見られる。すべての意味に共通することは，名詞部分を使用者がどのように認知しているかによって意味が作られている点である。その名詞から連想される内容が意味に大きくかかわっているため,「非動作性名詞＋する」用法によって作られた語の意味は文脈や使用者によって異なり，ある一つの名詞が決まった一つの意味だけで解釈されるのではない。

５つの意味のうち，どの意味を取ることができるかに注目すると，ある程度特徴的なグループがいくつか見られた。表１は各名詞グループが表すことのできる意味を示したものである。なお，横軸のラベル（①～④）は表される意味の番号（６節参照）である。

表１：各名詞のグループが表現可能な意味

	①	②	③	④	⑤
Ⅰ類	○	○	○	○	×
Ⅱ類	○	○	×	×	×
Ⅲ類	×	○	×	○	×
Ⅳ類	×	×	○	×	×
Ⅴ類	×	×	×	×	○

以下ではそれぞれの名詞のグループについて，分類される名詞がどのようなものであるかに注目しながら分析していく。

７．１．Ⅰ類の名詞

Ⅰ類に分類された名詞は次の８語であった。以下に用例を挙げる。

アイドル，コギャル，大学生，女，女の子，双子，男の子，フライデー

(6) なんで，もっと**大学生し**なかったんだろう？

(http://caksusaicfasak.blog92.fc2.com/blog-entry-75.html)

(7) ［再掲］ワンピースに草履という今夏の最新ファッションでそこらを歩くことになった。「ハヤシさんたら，足だけ**コギャルし**てますね」会った人に言われた。実は今，私の足の爪は茄子紺に塗られているのだ。（林真理子 1998『踊って歌って大合戦』文芸春秋）

Ⅰ類は人について表わす名詞が目立つ。(6)は「いかにも大学生らしい行為」をしなかった後悔の念についての言及である。(7)の「コギャルする」は上でも述べたが,「まるでコギャルのような様子である」という意味で用いられている。

４つの意味で用いることができるのは，人の性質を表わす名詞が用いられているためではないかと考えられる。本用法の意味は名詞部分の連想から意味が作られているが，その名詞が人にかかわるものであれば，それに属する人がどのような行為をするのか，どのような状態になりやすいのかが連想しやすい。この連想のしやすさが表現可能な意味に制限をかけていると考えられる。

また,「大学生する」については以下のような用例も見られた。

(8) わたしも普通の大学生して飲み会したかった　(Twitter)

同様に「クリスマスする」にも「早めのクリスマスする」や「一日遅れのクリスマスする」などの用例が確認されている。従来の「動名詞＋する」の場合，形態的な緊密性から，このように語の一部である名詞部分のみを外部から修飾することはできない（影山 1993）。例えば「国語の勉強する」は不適であり，「国語の勉強をする」「国語を勉強する」としなくてはならない。

このことから，「大学生する」や「クリスマスする」といった語が前提として先に存在しているのではなく，使用者はその都度「名詞（もしくは名詞句）＋する」を臨時に作成しているのではないかと考えられる。そして，このある種の言葉遊び的な造語法のために，「する」は例外的に句の包摂を許しているといえる。

７．２．Ⅱ類の名詞

Ⅱ類に分類された名詞は次の 7 語であった。以下に用例を挙げる。

お正月，ギンザ，クリスマス，バレンタイン，ハロウィン，ひな祭り，バースデー

(9) 女子数人でハロウィンする予定です

(http://okwave.jp/qa/q8290341.html)

(10) 横浜赤レンガ倉庫，すごいクリスマスしてたしサンタいたし，ホットワインが美味しかった　(Twitter)

ほとんどが時やイベントを表わす語になっている。(9) の「ハロウィンする」は「いかにもハロウィンらしい行為をする」という意味で用いられ，(10)は「いかにもクリスマスらしい様子である」ことを表わしている。「いかにもＮらしい～」になるか「まるでＮのような～」になるかはＮそのものに動作や様子・状態が適用されるかどうかにかかわっているが，この類の名詞はＮその時/場所ではない場面で行為や様子・状態が適用されにくい。例えば，ハロウィンでないときに友人同士で集まることには特殊な意味を持たせることが難しいため，ハロウィンではないときに「ハロウィンする」ことは実現しにくい。そのため「まるでＮのような～」の意味を取らなくなっているのではないかと考えられる。

７．３．Ⅲ類の名詞

Ⅲ類に分類された名詞は次の６語であった。以下に用例を挙げる。

インド，フルーツ，枝豆，少女漫画，少年マンガ，Gucci

(11) 冬瓜のコンポート作ってみた。これは目から鱗。ちゃんと**フルーツし**てる！　(Twitter)

(12) 女児向け玩具販促番組のはずなのに，少年マンガよりも**少年マンガし**た展開
(http://nextsociety.blog102.fc2.com/blog-entry-1035.html)

この類に分類される名詞は食べ物などの物体を表わすものが多い。(11)の「フルーツする」は本来野菜である冬瓜がコンポートにすることによって「まるでフルーツのような様子・状態」になっていることを表わす。(12)は番組の展開が「まるで少年マンガのような様子・状態」であることを表わしている。いずれの用例も「～様子・状態」を表わしている。これはこの類の名詞がいずれも生物ではない物体を表わす名詞であり，動作が想起されにくいものであることが要因になっているのではないかと考えられる。

７．４．Ⅳ類の名詞

Ⅳ類に分類された名詞は次の19語であった。以下に用例を挙げる。

アネハ，お手玉，カンガルー，ケチャ，コバンザメ，さよなら，サンドイッチ，ドナドナ，どろん，ハイエナ，バイバイ，はしご，バトン，尺八，蝶番，壁，墓，コンニチワ，棚ぼた

(13) 高谷はきちんとバントして荒金の打球を西岡が**お手玉し**てエラーして４点目～　(Yahoo!ブログ)

(14) 壊れたＰＣは昨日修理の為メーカーに**ドナドナさ**れて行きました♪
(http://bunbunta.blog94.fc2.com/blog-date-201012.html)

(15) 先日の所員との会話。「Ｔ邸，配筋検査行ってきました。」「**アネハし**てなかった？」「大丈夫。イイ配筋でしたよん。」姉歯は，もはや建築用語として定着してしまう勢い。(http://bellken.exblog.jp/i10/)

Ⅳ類に分けられた名詞には，動物名などが多く見られるほか，道具や食べ物などがある。(13)の「お手玉する」は打球をはじいて取りこぼす行為を「まる

でお手玉のような行為をする」と表現するために用いられている。(14)は『ドナドナ』という歌で，子牛が市場に売られていくことから，「まるでドナドナのように人や物が別の場所に連れていかれる」という意味として用いられている。(15)の「アネハする」は伊東（2010）でも指摘された語である。これは 2005 年に起きた耐震強度構造計算書偽装事件で逮捕された人物の姓を用いて「まるでアネハのように偽装する」などの意味として用いられている。

Ⅳ類の名詞はいずれもそれ自体に特有の行為，それを使う，作るときに特有の行為が想起されやすいという特徴を持っている。しかし，人を表す名詞ではない，もしくは特定の個人名ため，Ｎそのものではない人間に行為が適用され「まるでＮのような行為をする」の意味が選択される。５つの意味のうち「特定の行為とそれに連続・並行して行われる行為をする」を除いた４つについて考えると，「いかにもＮらしい～」と「まるでＮらしい～」では，実際Ｎそのものの行為や様子・状態について「Ｎする」と表現する場合の方が自然であると言え，どちらかと言えば「いかにもＮらしい～」の方が現れやすいといえるだろう。「～行為をする」と「～様子・状態」では，非生物では行為が想起されにくいなどの理由で「～様子・状態」の方が選択されやすいと考えられるだろう。すると，Ⅳ類が表す「まるでＮのような行為をする」という意味は比較的表現されにくい意味であるといえる。この場合にはそれ以外の意味で用いられにくくなり，中には慣用化されていくものも出てくるのではないかと考えられる。

７．５．Ｖ類の名詞

Ｖ類に分類された名詞は次の 40 語であった。以下に用例を挙げる。

朝マック，おにぎり，お風呂，お茶，お昼ご飯，科学，カジノ，カビキラー，カフェ，クリニック，ゲーセン，ゲンコツ，ごはん，シュー，セコム，チン，デザート，トイレ，トンカチ，パソコン，バルサン，ビデオ，ファブリーズ，ブログ，マキロン，マジックリン，マツキヨ，ランチ，レジ，写メ，哲学，○，Amazon，ＢＡＲ，BLOG，Google，ＰＣ，Skype，ｗｅｂ，ＹＡＨＯＯ

(16) [再掲]大阪北浜にある，北浜レトロで<u>カフェし</u>てきました。

(http://buddyxxx.blog64.fc2.com/blog-entry-1094.html)

(17) <u>ファブリーズし</u>て，風通しのよい所に吊るして置けば，２．３日で匂

いは取れると思いますよ。　(Yahoo!知恵袋)

(18) たまには娘たちと<u>お茶する</u>のもいいものです。　(Yahoo!ブログ)

V類が表す「特定の行為とそれに連続・並行して行われる行為をする」という意味のうち,「特定の行為」が何になるかは，名詞部分が表す内容によって異なる。今回収集したものでは，場所，ツール，食べ物，記号を表わす名詞が見られ，それぞれ,「行く」「使う」「飲食する」「作る」「付ける」という行為が意味される。(16)は「カフェに行く」という意味とそれに連続して行われる行為を合わせて,「カフェに行って飲食をする/休憩をする」などの意味を表わしている。同様に(17)は「ファブリーズ（などの消臭剤）を使って消臭する」となる。(18)の「お茶する」は「お茶を飲みながら談笑する」などの意味で用いられ，特定の動作と並行する動作を合わせて表わしている。用例としては挙げていないが,「チンする」や「科学する」もこの類にあたり,「チン」は電子レンジを表わすメトニミー,「科学」を一種のツールと考えれば，それぞれ「電子レンジを使って温める」「科学（的手法）を用いて分析する」と解釈できる。

８.「非動作性名詞＋する」用法の特徴

８．１．動名詞と比較した「非動作性名詞＋する」用法の特徴

「非動作性名詞＋する」用法の最も大きな特徴は，名詞をどのように認知しているかが意味にかかわるということである。例えば「大学生」という名詞の辞書的意味は「大学に在籍する学生」であるが，実際には「大学生」というものについて「勉学や研究に没頭している人」「自由を謳歌して日々遊びまわっている人」など様々な特徴を認識している。このように，その語から想起される知識の総体をその語の意味として採用する百科事典的意味[5)]観が近年の認知言語学では注目されつつある。なお籾山(2009)によれば，この百科事典的意味として想起される意味は個人レベルのものであり，多くの人が同じように持つ意味の要素もあれば，特定の人が持つ要素もあるとしている。また，要素にはより中心的な要素から周辺的な要素までが連続的に存在しているとしている。「非動作性名詞＋する」用法の意味においては名詞の百科事典的意味がかかわっていると言えよう。

(19) さぁ，大学生活最後の半年間(になるはず)，３年ぶりにまじめに<u>大学</u>

生しようと思います。

（http://jaccer.blog83.fc2.com/blog-entry-416.html）

(20) 大阪北浜にある，北浜レトロでカフェしてきました。（再掲）

(19)の「大学生する」の意味には「勉学や研究に没頭している人」「自由を謳歌して日々遊びまわっている人」といったような大学生の典型例やステレオタイプ的な知識がかかわっていると考えられる。(20)の「カフェする」は，名詞から想起される知識のうち，一種のフレームのように名詞がどのような一連の行為と密接にかかわるかという知識が意味に影響していると考えられる。「カフェする」であれば「カフェに行って飲食する」などのようになり，連続・並行して行われる行為も全体の意味として扱うものがあるのだと考えられる。

また，楽曲名や人名を用いたものは単純にそのものを知っているか，それがどんな内容なのか，どんなことをする/した人なのかという知識を持っていなければ解釈できない。特に人名の場合，仲間内の名前を使うこともあり，外部の人には全く理解されない意味を持つ一種の隠語的表現にもなりうる。

このように意味の解釈に名詞部分の百科事典的意味がかかわっている。また，語の意味が文脈によって異なることも，百科事典的意味の要素の中心性が異なることや，個人レベルの知識がもとになっていることから理解できる。

もう一つの特徴として，「非動作性名詞＋する」用法は動作性を持たない名詞が動名詞として用いられているのではなく，あくまでもサ変動詞の語幹として用いられているということが挙げられる。動名詞かどうかをテストする手法として「～方法」という形で成立するかどうかというものがある（影山 1993）。

(21) 動名詞の場合：勉強方法，料理方法，受け取り方法，リサーチ方法

非動作性名詞の場合：*大学生方法，*お茶方法，*アネハ方法

→大学生する方法，お茶する方法，アネハする方法

非動作性名詞が動名詞として用いられているならば「非動作性名詞＋方法」という形も許容されるであろうが，実際にはされない。一部「トイレ方法」「ハイエナ方法」「サンドイッチ方法」は確認されたがかなり限られたものだといえる。「非動作性名詞＋する」用法の意味を保持したまま「～方法」に当てはめるには，「Ｎする方法」といったような形を取らざるを得ない。このことからも，本用法は，非動作性名詞が動作性を持ち動名詞として用いられるというのでは

なく，あくまで非動作性名詞が「する」と合成した場合に限って，臨時的に動作性が引き出され，動作を含んだ意味を持つという用法であるといえる。

８．２．若者語と比較した特徴

本用法は，ウェブログやSNSなど話し言葉のように書かれたもの，またここには挙げていないが，実際の話し言葉に用いられる。また使用者は，今回収集した限りでは若者によって書かれたと思われるものがほとんどであったが，中には「お茶する」など比較的広い世代に用いられている語も存在している。このため本用法は米川(1998)が定義する「俗語[6)]」であると考えられる。その中でも「年齢・性別・職業に関係なくすべての人が使い得る語（米川 1998:10)」とされている「一般卑俗語」が最もこの表現を表わすのに近いと考える。ここでは同じく「俗語」の一部とされる「若者語」と比較した本用法の特徴について述べる。

若者語の特徴について，米川（1998,2006）を参考にまとめておく。若者語は第一に仲間内のことばでありヨソ者には用いない。またウチのことばであるため隠語的特徴を持つことが多い。第二に会話促進や娯楽などのために用いられるものである。そのため省略や新しい語形，本来の意味を変えたものが多い。第三に規範からの解放を求めた自由と遊びである。

これらの特徴と比較すると,「非動作性名詞＋する」用法は，第一の特徴については「人物名＋する」の一部が隠語的表現であると言えるものの，その程度である。本用法はその場限りの臨時的なものであり，その意味は個人レベルの知識によるため，ウチ・ソトという概念は適用されない。つまり集団語というよりも個人的な娯楽に近いと考えられる。しかし，使用された語の意味の解釈が受取手にゆだねられている点は本用法の特徴であるといえ，正しく意味を受け取ることは，その場の文脈を把握し合っていて共通した知識を有していることを指し，会話参与者で共同体を形成する一助になる可能性がある。

第二の特徴である娯楽として用いられるということや，第三の特徴にある規範からの自由と遊びというのは本用法の特徴とも共通するであろう。意味の解釈に連想や比喩を用いる点などは言葉遊び的な要素が踏まえられていると言っていいだろう。また，本来であれば数語で表現する内容を一語でまとめて表現

している点も，会話促進に役立っていると言えよう。しかし，若者ことばに多く見られるオノマトペの多用のような語感の楽しさなどはあまりない。

以上から「非動作性名詞＋する」用法の特徴として，あくまで個人レベルの言葉であるが共同体の形成にかかわる場合があるということと，会話促進や娯楽として用いられているという特徴が確認された。

９．まとめと今後の展望

ここまで「非動作性名詞＋する」用法について，どのような意味が選択されるかによって分類を行い，本用法の特徴を述べてきた。

まず本用法は，①いかにもＮらしい行為をする，②いかにもＮらしい様子・状態，③まるでＮのような行為をする，④まるでＮのような様子・状態，⑤特定の行為とそれに連続・並行して行われる行為をする，という５つの意味を持ち，表せる意味ごとにＩ～Ｖ類に分類することができた。まとめると図１のようになる。

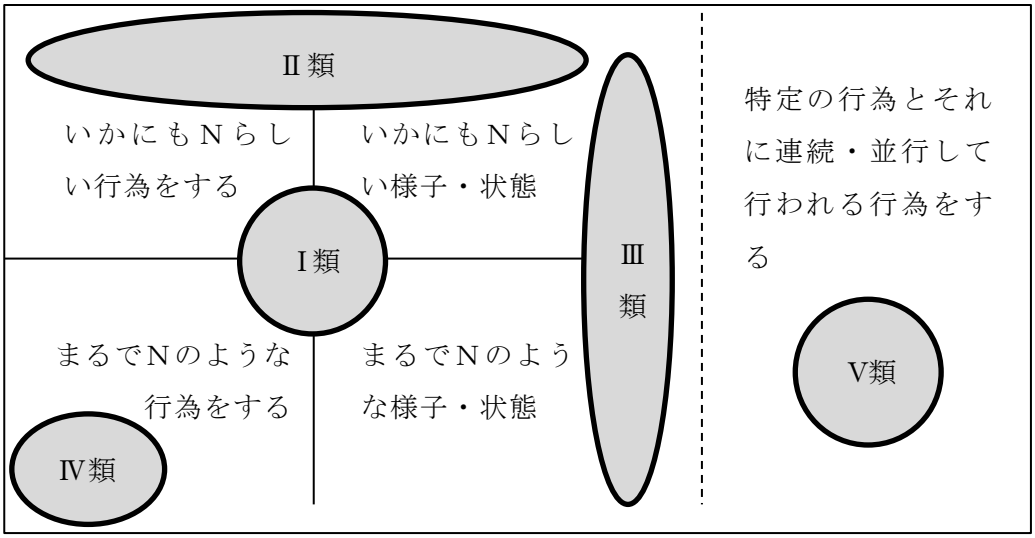

図１：「非動作性名詞＋する」用法の意味の分類

Ⅰ類は人にかかわる名詞が多く，特徴的な行為や様子・状態が想起されやすく，Ｎそのもの以外にも表す意味を適用しやすいため，４つの意味で用いられ

ている。Ⅱ類は時やイベントを表わす名詞が多く，習慣的に行う行為や様子は想起されやすいが，Ｎその時以外に適用できないため，「いかにもＮらしい～」の２つの意味を主に表す。Ⅲ類は物体を表わす名詞が多く，特徴的な行為が想起されにくいため，「～様子・状態」の２つの意味を表わす。Ⅳ類は動物名や道具など名詞そのものが特徴的な行為を持っていたり，特徴的な行為を伴っていたりするものが多い。Ｎそのものに行為が適用される場面は少なく，Ｎではない人物に用いられるため「まるでＮのような行為をする」という意味のみで用いられる。Ｖ類に分類される名詞は「特定の行為とそれに連続・並行して行われる行為をする」という意味を持ち，特定の行為は名詞によって異なり，場所は「行く」，ツールは「使う」，食べ物は「飲食する」「作る」になる。

「非動作性名詞＋する」用法の特徴について，第一に，本用法の意味は百科事典的意味から作られていると考えられ，同じ語でも文脈によって異なった意味を持つ場合があり，あくまでもその場限りの臨時的な用法である。第二に，本用法には「する」が必要不可欠であり，完全に動名詞化しているのではなく，臨時のサ変動詞の語幹として用いられる。通常の動名詞の場合，その意味は動名詞が持ち，「する」は文法的機能のみを有しているとされるが，本用法の「する」はこのような機能動詞ではない。第三に，本用法は俗語としての特徴を持ち，若者ことばとも類似するが，ことば遊び的側面が強く，意味の理解が知識の共有につながり，共同体の形成につながる可能性がある。

注

１）「する」に付くことができる名詞には動作を表わすものの他に，状態を表わすものもあり，それらを踏まえ「動詞性」と表記する先行研究も見られるが，本稿では比較的多く使用されている「動作性」の語を用いる。

２）本稿において「サ変動詞」は「サ行変格活用をする動詞。『する』とその複合語。」と定義し「サ変動詞語幹」は「『する』による複合語の語幹」と定義する。また，「非動作性名詞」は「動作性を持たない名詞（＝動名詞と区別したときの名詞）」とする。

３）動作性の有無について，本稿では意味の側面から判断し，全体の意味が 2 語の単純な意味の合成によって解釈されるものを動作性を持つ名詞，つまり

動名詞であるとする。

４）以下では「いかにもＮらしい行為をする」と「いかにもＮらしい様子・状態」の両方を表わす場合は「いかにもＮらしい～」と表わす。同様に「まるでＮのような～」「～行為をする」「～様子・状態」と表記する。

５）本稿における百科事典的意味の定義は籾山(2009)による。「ある語（に相当する言語単位）の百科事典的意味とは，その語から想起される（可能性がある）知識の総体のことである。　（籾山,2009:5)」

６)「俗語」とは話し言葉の中で公の場,改まった場では使えない(使いにくい),語形・語源・意味・用法・使用者などの点が，俗っぽい・くだけた・下品・卑猥・荒っぽい・誤まっているなどと意識される語や言い回しをさす。多くの場合，改まった場で使う同意語または同意の表現を持っている。主な俗語の候補語に若者語・業界用語・隠語・卑語・流行語・蔑視語の大部分あるいは一部分がある。また一般卑俗語がある。(米川 1998:8-9)

引用・参考文献

伊東美津（2010)「若者ことばと比喩」『九州国際大学　教養研究』16(3):1-20.

影山太郎（1993)『文法と語形成』ひつじ書房.

平尾得子（1990)「サ変動詞をめぐって」『待兼山論叢 日本学編』24:57-73.

古澤純（2014)「『非動詞性名詞＋スル』の語構成」『愛知大学国文学』53:66-80.

松本曜編集（2003)『認知意味論』大修館書店.

籾山洋介(2009)「百科事典的意味観」『認知言語学論考』9:1-37.

米川明彦（1998)『若者語を科学する』明治書院.

————（2006)「若者ことば研究序説」『言語』35(3):20-25.

付記

本稿は，筆者の大阪大学文学部 2017 年度卒業論文をまとめたものである。

（文学部学生）